

中学校

佐保田の丘にて

附属中学校・副校長

植村啓介

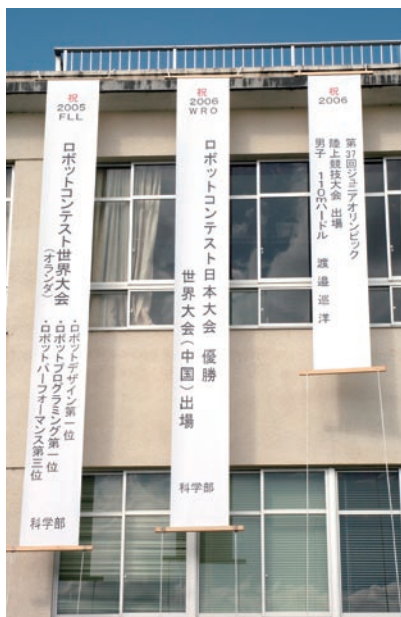
附属中学校のこの頃

附属中学校では、本年の「入試説明会」

を10月にオープンスクールと銘打って開催し、12学級の授業参観を取り入れたり、生徒会役員が受付や案内を手伝うなど生徒の活動が見えるように内容を充実させました。これに関わり、校内では環境を整備し、廊下や教室の掲示板に生徒の様々な作品を展示し、本校の教育に理解を深めていただくことにも重点をおきました。学校案内パンフレットづくりをはじめとする受け入れの準備等々では教職員がまとなり、ポスターおよび垂れ幕には大学の協力があつたことなど例年とは違う新しい試みが行われました。おかげさまで約500人の参加者があり、アンケートでは好意的なご意見が



クヌギの苗木を植える



2006FLL 全国大会優勝

多く見られましたし、受験生も増え努力の甲斐があつたとホッとしています。

文化庁が支援する「子ども 夢・アート・アカデミー」という活動があります。これは子どもたちに専門の方からじかに話しを聞く機会をつくるために設けられたものです。本校も昨年からは講師を依頼し、ようやく今年度の1月19日に、日本芸術院会員で本校の卒業生でもある絹谷幸二先生に来校していただくことができました。美術の授業では、反対の色を混ぜながら「自分だけの色の作り方」を指導され、講演では「描いた絵を、少なくとも自分が好きになればそれはいい絵だ。」と語られるなどして、多くの生徒に感銘を与えてくださいました。

生徒の部活動では、科学部が5月5日からオランダで開催されたFLL

(ファースト・レゴ・リーグ) 世界大会で世界3位に輝きました。11月17日から中国で行われたロボットコンテスト世界大会でも松田(2年)、栄長(3年)が2人1組で出場し、3位に入賞しています。科学部はこれらの活躍が認められ、2月28日に中学生としては初めて学長表彰を受けました。現在はFLL世界大会の前哨戦である近畿大会、全国大会で優勝を果たし、現在アメリカのアトランタでの大会に出場中で活躍が期待されています。

裏山クラブの活動は、里山としての平城山の再生と、生徒の里山への「働きかけからの(自分や他者への)気付き」を

大切に育んでいくことを目的としています。里山再生の取り組みはそこでの「産物」が里山の暮らしやいのちを育んでいるという、「共生」の事実に基づき学習となります。地域との里山を巡る協同や交流の場づくりの取り組みの一つとしてシティ・サクセスファンドから「附中学の駅をつくる」という主題への研究助成を2年間にわたり受けることになりました。また、大学との共同研究を行っています。ピア・サポート活動(大学生による教育相談活動)と方向を一つにして、「里が育む教育力」、すなわち里山での活動や遊び(基地づくり、ツリーハウスづくり)、山の神祭といったスピリチュアルな体験を通して、コミュニケーション能力の育成を目指しています。

本校は今年度創立60周年を迎えるにあたり、数年前に60周年準備委員会が結成され、平成19年5月2日に記念式典や祝賀会を行うことになりました。9月にはPTA育桜会主催のバザーも予定されており、教育後援会や卒業生の八重桜会の援助のもと準備を進めています。現在は、記念事業として附属中のこの10年をまとめた『六十年のあゆみ』をつくることや、記録写真と生徒作品号「塔」の電子化を進める作業を行っています。このように現在、附属中学校では、教職員と本校に関係する方々で話し合い、創立60周年に向けて最後の仕上げに励んでいます。